

2008年度 第86回 関西学生サッカーリーグ（第11節）

6/21（土） 大阪長居第2陸上競技場

第1試合 立命大 vs 大教大

立命大には大きな不満が残ったゲームだった。スタートから立命大が中盤の優位そのままにゲームを進めた。右サイド伊庭の上がりも鋭く、時には大きな左右の展開で大教大DFを再三押し込みながらシュートが打てない。よりフリーの形でシュート、また攻めの形がラストパスを求めているのか。いずれにせよチャンスを生かせない展開に終始した。そんな中で先制したのは大教大。前半38分、MF田代が思い切りよく打ったシュートが立命大DFの体に当たってゴールイン。

いいテンポでゲームを進めながら無得点の立命大、後半は1点のハンデを背負って攻めがザツになった。ところが逆にシュートを打つ思い切りのよさが出た。後半12分に立命大は追いついた。MF山口のシュートはGKに一度ははじかれたが、左から詰めていたFW宮尾が巧くあわせた。この形をベンチもまた選手たちも求めているのだから、持続できないところにゲームの難しさがある。

同点に追いついてからの立命大は、また前半と同じように淡白な上に、パスのつながりもいとはいえない展開になった。もっとも大教大が出足よく中盤で頑張ったこともあるが。

（文：関西学連）

立命大 1 { 0-1
1-0 } 1 大教大

得点(アシスト)者
57分 7 宮尾

得点(アシスト)者
38分 20 田代

第2試合 近畿大 vs 京産大

近畿大 1 { 0-0
1-1 } 1 京産大

得点(アシスト)者
84分 13 小笠原

得点(アシスト)者
89分 2 渡辺

中盤やや優位そのままにゲームのイニシアティブを取っていた近畿大、後半39分、やっとこさで手に入れたトラの子の1点をロスタイムで失って痛い痛い引き分け。近畿大GK高石が「得点機会阻止」の反則で退場。これで得たPKを京産大が決めて同点引き分けに持ち込んだ。

近畿大は総理大臣杯の出場を決めて、これが2戦目。前節、関学に黒星を喫しているだけにゲーム運びが注目された。前半はボランチのMF小笠原が展開の起点になって攻めの幅もあり、パスもつながった。しかし得点に結びつかず、後半には先細りになった。プレーに思い切りのよさが出なかったことも、いいフィニッシュに結びつかなかったこともある。シュートの正確さにも課題を残した。

京産大は後半、時折見せるカウンター攻撃に活路を見出したが散发気味。再度の試みがあればゲームを支配できたかもしれない。ロスタイムで乾坤一擲のFW陣のラッシュが効いて同点ゲームに持ち込めた。

（文：関西学連）

6/22（日） 大阪長居第2陸上競技場

第1試合 同大 vs びわこ大

びわこ成蹊の完勝。後半開始直後、びわこ成蹊MF船津にフリーでシュートを決められてから、同大DFが完全に崩れた。DFラインのウラを再三突かれて、まったく対処できなくなった。びわこ成蹊の攻めがよかったこともあるが、むしろ責められるべきは同大イレブンの志気が問題で、大きな反省をせねばなるまい。

このところの同大は、前半戦の勢いはどこえやら、攻守に迫力がまったく感じられず、びわこ成蹊の蹂躞にまかせてしまった感じ。時としてMF楠神らの突破があるのだが、フォローがない状態で途切れてしまう。個々の技術があっても、これでは苦しい。そして相手に逆襲を許してしまう、の繰り返しで、同大は後期に向けて大きな課題を残したといえよう。

「向こうがよくなく、ウチのパターンになれた」(松田監督)びわこ成蹊は、MF船津を軸に相手DFのウラを突くパスが的確で、ゴール前の寄せにも鋭さを見せて、チャンスをことごとくものにした。総理大臣杯こそ出場権を逸したが、若いチームが成長して後期にどんな姿を見せてくれるのか楽しみである。

（文：関西学連）

同大 0 { 0-0
0-5 } 5 びわこ大

得点(アシスト)者
46分 2 船津
53分 9 瀬古
58分 29 安本
72分 13 平野
75分 26 下

第2試合 大院大 vs 関西大

大院大 1 { 0-1
1-1 } 2 関西大

得点(アシスト)者
35分 19 金園
75分 3 宇佐美

得点(アシスト)者
87分 60 小野

故障者、出場停止者が多い大院大にすれば精一杯の戦いだったろう。中盤の厚さと展開では一歩リードする関西大に対して、大院大は、FWからコンバートの岡村、1回生の日高「急造のDFライン」(藤原監督)の頑張り、中盤の忠実なプレスが光った。

関西大は降り続く雨でゆるんだグラウンドの悪条件ながら、それでも速い展開でパスをつなぎ、FW金園の得点力で前半35分に先制ゴール。後半30分には左からのクロスボールをMF宇佐美がヘッドで決めて、ゲームを手中にした。2点ともMF藤澤が相手DFのポジション、動きを見ての好パスで切れ味があった。

つなぐサッカーを標榜している大院大だが、人材不足の感はいなめず、中盤では関西大の速い寄せと精力的な動きに、少しずつ後手に甘んじた。大院大としては関西大を上回ったFK、CKのセットプレーを最大限生かしたかったに違いない。しかし、少ない残り時間の中で逆襲に転じ1回生FWの小野が一矢を報いたことはほめられていていいだろう。

（文：関西学連）

6/22(日) 加古川運動公園陸上競技場

第1試合 阪南大 vs 姫獨大

ここまでの成績は7勝3分。関西選手権を含めると、実に公式戦11連勝と脅威の成績を残している阪南大。対するは前節、昇格組のライバル・大教大に勝利を挙げた姫獨大だ。試合は阪南大が連勝の記録をまた一つ伸ばし、総理大臣杯前の大事な試合を勝利で締めくくった。阪南大は前節に続き4得点と攻撃陣が獅子奮迅の活躍を見せた。「今までの鬱憤がここにきて出ました」と先制点を決めたFW⑬西田剛主将。守備陣も最後まで集中力を切らず無失点で試合を終えた。総理大臣杯では「ハードワークをみせたい」と西田。初戦の相手・早稲田大に、阪南大の力強さをを見せてほしい。

一方、姫獨大の昌子力監督は「4失点というスコアよりも、選手たちが下を向いてしまったのがよくなかった」と敗因をあげた。これまで堅守なサッカーをしてきた阪南に前半で0-2と離され、オウンゴールを献上するなど厳しい試合となってしまった。しかし6位で前期を終え、一部リーグ初挑戦ながらも健闘した姫獨大。「夏はチームワークを高めたい」(昌子監督)。昌子イズムの浸透したサッカーに期待したい。

阪南大 4 { 2-0
2-0 } 0 姫獨大

得点(アシスト)者
21分 13 西田
43分 3 野田
77分 オウンゴール
85分 29 井上

(文:フリーライター 久住 真穂)

第2試合 桃山大 vs 関学大

桃山大 0 { 0-2
0-1 } 3 関学大

得点(アシスト)者
23分 3 飯野 (26 梶河)
26分 5 青戸 (26 梶河)
48分 26 梶河 (11 栗原)

後期への足がかりとなる大事な試合。桃山大としては、前期最後の試合で連敗は避けたいところ。対峙する関学は関西選手権後、目標をインカレ出場に切り替え、前節は3位決定戦で破れた相手・近大にリベンジを果たすなど勢いがある。

試合の均衡を破ったのは関学。「気をつけていた」(桃山大・松本直也監督)セットプレーで、関学のDF③飯田洋介が頭で合わせ先制ゴール。その3分後にはゴール前に入ったパスがこぼれたところをMF⑤青戸謙典が2試合連続となる得点を決める。後半開始早々にも追加点をあげ、退場者を出すアクシデントはあったものの、3-0で関学が快勝した。スピードある攻撃を展開した関学に対し、桃山大は攻撃がかみ合わず苛立ちがチームに蔓延し、悪循環となってしまった。松本監督は「チームを壊すつもりで、0から作っていく」と新しいチーム作りを示唆した。一方、この勝利で4位となり、インカレ出場圏内も出てきた関学。MF⑩小関佑典主将は「前期は引き分けが多かった。秋は勝ちきれぬチームになる。」と宣言した。

(文:フリーライター 久住 真穂)